

学校法人大丸クリエイターズアカデミー

ディースファッション専門学校

平成28年度

学校関係者評価委員会 報告書

学校関係者評価委員会

平成 28 年 10 月 12 日

目 次

1. 報告書骨子	2
2. 平成28年度第1回学校関係者評価委員会での論議内容	3
a. 学校関係者評価委員によるディースファッション専門学校自己評価の各項目への提言	
b. 学校関係者評価委員によるディースファッション専門学校自己評価に対する総評	
3. 平成 28 年度第2回学校関係者評価委員会での論議内容	6
a. 学校関係者評価委員による第1回委員会以降のディースファッション専門学校の活動の各項目への提言	
b. 学校関係者評価委員によるディースファッション専門学校自己評価に対する総評	
4. 学校関係者評価を受けて	8
(補) 学校関係者評価委員会開催日程	

1. 報告書骨子

学校関係者評価委員会(以下、当委員会)は、デイズファッション専門学校の「学則」及び「学則を遂行・運用するための細則」に基づき、平成 27 年 4 月 1 日に設置した。デイズファッション専門学校(以下、本校)の自己評価の結果について客観性と、透明性を高めるとともに、学外の関係者から専門的な助言を得るため、外部評価を実施する機関として当委員会を設置した。

当委員会は、本校の教職員が「自己評価委員会」での論議を通して作成した自己評価を資料として、自己評価の内部評価を参考にし、本校教職員との意見交換等を行ったうえで、本校の学校運営・教育活動について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。

当委員会委員は外部委員 5 名と本校関係者 2 名で構成されている。外部委員は本校の教育理念を理解し、実業、人財育成に精通した学外の関係者から、本校理事長が選考し、委嘱している。委嘱した委員は下記のとおりである。

今年度は平成 28 年 4 月に平成 27 年度の自己評価を資料として平成 28 年度第 1 回学校関係者評価委員会を開催した。次に 第 1 回の委員会でいただいた評価・助言を基に その後行った活動を中心に平成 28 年 10 月に平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会を開催した。

今年度の当委員会としての評価・助言を取りまとめ、本報告書を作成した。本報告書に記載した評価・助言は より本校の発展に資するという考え方に則り、過度に要約することなく記載している。

記

委員長	公江辰朗	学校法人大丸クリエイターズアカデミー デイズファッション専門学校 理事長
委員	中島一博	(株)ヤマトマネキン代表取締役会長
	葛西順子	(株)ワコール 人事総務本部 ダイバーシティ・キャリア支援室 執行役員室長 及び 本校卒業生
	糸井弘一	協同組合 関西ファッション連合 戦略室特命担当
	酒井明	京都府立朱雀高校 校長
	古川あかり	本校生徒 父兄
	大橋治子	学校法人大丸クリエイターズアカデミー デイズファッション専門学校 校長 及び 本校卒業生

以上

2. 平成28年度第1回学校関係者評価委員会での論議内容

a. 学校関係者評価委員によるディーズファッション専門学校自己評価の各項目への提言

基準1: 教育理念・目的・育成人材について

- ・ 前年に引き続き大きな変更は加えていない。

基準2: 学校運営について

- ・ 平成29年度からの新学科編成について 平成29年度入学者が学科の統合・再編後の第1期生となる。コース制を取り入れ、専門分野の細分化とより高度な教育を目指すとしているが その先の就職先は想定されているのか?
同じような出口に向かうのに ただ2年が3年になる様なことでは意味がない。
産業界の戦力となる人材を輩出する学校であるのならば 学生に示す出口を明確にすると 受け入れる企業としても有難い。その様な学科再編であってほしい。
- ・ 以前委員会で論議となった「プロダクション科」と「デザイン科」の教授内容の近似性問題の解消、一方で基礎をしっかり教えるという2つの課題の解決としてコース制・3年化に踏み切った。就職先についても従来以上に開発していく。

基準3: 教育活動について

- ・ 専門学校や大学で学んでも就職してすぐやめてしまったり すぐ投げ出してしまう例がみられる。専門技術教育と共に人間形成の教育も必要だ。
- ・ 就職企業にどういった専門性を必要としているのか聞いてみてはどうか。それを学生に伝えることで 投資した知識・技術の習得と結び付いて キャリア形成の助けになるのではないか。
- ・ 人間的な成長の部分では2年生と3年生では随分違うと感じる。将来を決めかねているような状態がすぐ仕事を辞めることにつながっている。自分のやりたいことがわかって、学べば 長くその仕事に就けるであろう。
- ・ 産学連携の授業においては 企業の進める時間軸と学校の時間軸(教えるという課程)がなかなか合わずに調整に苦慮した。学生の知識・経験不足もあり、そのレベルを上げるのに時間がかかる。中々フレキシブルに対応できず苦慮している。
- ・ しかし 学生は知識がないからこそ 学生であり、企業も教えていくので アイデアを出してもらえれば 企業と面白いことが出来るであろう。

基準4: 教育成果について

- ・ 平成27年度の入学者が47名にとどまり、目標を下回った。一方でエスモードが京都に進出するなど競合が現れる中で ディーズのクオリティを保つことが必須。入りやすく出てやすく、就職率も100%という学校を卒業した人材が本当に優秀なのか 企業側として

不安がある。

- ・ 一定の知識・技術がディーズにいる間に身につけ、ディーズのボーダーラインをクリアした者に就職を紹介するなど、ディーズのクオリティを保つ努力をしないと、企業からのディーズへの評価が落ち、今後の後輩たちの就職が難しくなる。退学率が低いというのが必ずしも良いのではない。
- ・ 競合校の入学者を調べ、どのような学生がディーズを選んでいるのかを調べ、理解する必要がある。ディーズの特徴を明確化し、どのような学生であればあと何人入学してもらえるのかといった具体化をする必要がある。そうでないと65名の入学者目標を設定しても数字だけで実現できない。入学から卒業までのプロセスを考え、どのような学生に入学してもらうか計画を立てることで実現するのではないか。

基準 5: 学生支援について

- ・ 奨学金が学生にとって大きな負担となっている現状の中で平成28年度からパル井上財団様の給付型奨学金の対象校にいただいた。又、29年度からはディーズでも給付型奨学金を導入する予定。
- ・ 良い事であり、是非進めていただきたい。

基準 6: 教育環境について

- ・ 本館、西館のLED化を終了。今夏休みに本館の耐震工事を行う。学生に安心して学習してもらえる教育環境を整える。

基準 7: 学生の募集と受入れについて

- ・ 学生募集については前回の委員会で「京都」という面を前面に打ち出しながら進めてはどうかというご意見を頂いた。これを受け、パンフレットをはじめとする、広報において、又、エキジビションなどの場で極力「京都」という点を織り込んできた。ただ、結果として学生獲得にプラスとなっておらず、今後も試行錯誤をしながら進めたい。
- ・ 自分の子供が学校を選ぶときに、子供の意思に任せていた。子供はオープンキャンパスには参加していた。ただ、パンフレットはそれほど記憶がない。
- ・ 先生方の学生がディーズに入学し、卒業する際にどういう人になってほしいかという思いがあると思う。パンフレットにはそれを判りやすく表現するのが重要だ。
- ・ 今回のパンフレットのように、裏表紙からの教育方針や理念等の固い表現と表表紙からの読みやすい内容(就職内定者インタビュー等)の表現の両方があっていいと思う。
- ・

基準 8: 財務について

基準 9: 法令等の順守について

- ・ 学校側委員からの説明のみ

b. 学校関係者評価委員によるデーズファッション専門学校自己評価に対する総評

- ・ 平成28年度第1回学校関係者評価委員会では 前年2回の委員会の中で示唆した就学期間の延長によるより高度で充実した教育内容を求めて 学科の統合・再編とコース制の導入、一部コースの就学期間3年化の説明を受けた。デーズはファッションに夢を持ち、ファッション関連の業界で活躍する事を目指す学生の為の職業訓練を第一義とした教育機関として、高い教育目標を掲げている。この目標を実現するためにもこの改革を成功させていただきたい。
- ・ その為には 学生に対して各コースごとにどのような職業に就けるのか？ 又、学校としてどのような就職先を提示・紹介できるのかという 一貫したキャリアルートを学生と共有することが肝要である。
- ・ 入学者数が目標数に達しない中で、競合も京都に進出してきている。デーズに何を求められているかをしっかり分析し、入学してほしい学生の確保に向けて 学校の魅力を伝える努力をしないと入学者を増やす事は難しい。又、入学後についてもデーズの教育クオリティを保つ努力を続けていただきたい。
- ・ 職業人を育成する観点からいうと 産業界の人材に対する要請、学生の気質は常に変化しており、伝統を大切にしながらも、学校として外部の変化とそれに伴うニーズの変化を教育活動に反映させていく必要がある。その観点から、当委員会での論議を真摯に受け止め、教育活動に反映されることを強く望む。

3. 平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会での論議内容

a. 学校関係者評価委員による第 1 回委員会以降のディーズファッション専門学校の活動の現状報告への提言

学校運営に関して

- ・ 新学科のカリキュラム内容と時間バランスを報告した。現状 2 つある「ものづくりにかかわる学科」を統合し、「ファッションクリエイティブ学科」をつくり、従来からある「ファッションビジネス学科」、「ファッションザッカプロデュース学科」と合わせた 3 学科構成で運営していく。又、各学科の中でコース制を持ち、履修年度を 2 年、3 年とコース単位で設定した。以前頂いた「学生にとってキャリアコースが明確になるとよい」というご意見に十分留意して コースを分けることでより卒業後の進路を意識したものになるよう努めている。
- ・ 学科再編が 学生の将来の職業イメージにつながるようになってきているのは分かった。ものづくり系学生の就職先が専門職に加えて 販売や生産管理系等にもあるのならば 取得を目指す資格も柔軟に対応し、例えば「TES」や「カラーコーディネーター」等、画一的な資格でなく、アパレル業界以外でも使えるような資格も加えた取得の幅を広げてみる方法もある。

教育活動に関して

- ・ 以前にいただいた示唆もあり、意識的に学年間の交流に力を入れている。毎朝校長以下が挨拶の励行を率先しており、少しずつ成果が表れていると感じている。
- ・ 人間関係を構築できずに離職する人が多くいる。「あいさつ」が出来るかのレベルによって就職後、人間関係が構築できるかどうかにつながっているように思える。その中で「挨拶はなぜするのか」という根源的な事を説く必要がある。『「あいさつ」とは私はあなたにとって敵ではない。害を与えない。ということ伝えるメッセージである。』専門学校においても人間形成において挨拶を切り口に進めていくと有効である。

教育成果について

- ・ 以前いただいた「入学しやすく卒業しやすく就職できるというのは企業から見て不安である。」とのコメントについては 学生レベルの維持・向上について 当校の現状は入学時に学生レベルを選抜できる状況ではないとの認識を持つ一方、入学後については安易な進級を避け、学生へのカウンセリングの強化、保護者との連携により適切な対応を行うことでレベルの維持・向上に努めていく。

教育環境について

- ・ 懸案であった「本館耐震工事」が 9 月末で完了した。財政的にはゆとりがあるわけではないが 学生の安全・安心が学校運営の根幹との考えで実施した。合わせて LED 化、Wi-fi の導入、トイレの整備など、教育環境の整備を行った。

学生の募集と受入れ状況について

- ・ 9月末段階でのAOによる入学選考時での状況は 2018年問題と表される18歳人口の減と大学の対策強化により、大変厳しい状況となっている。クリエイティブ系は技術を身につける、ものづくりをするという点において 大学との差が明確で影響は比較的少ないが ファッションビジネス学科において顕著に影響を受けている。高校への訪問回数を増やしたり、追加の広報活動を行うなどの対策は講じている。
- ・ AO内定者の状況において 高校のエリア単位での増減やエントリールート进行分析できているか気になる。
- ・ 平成27年から28年にかけて大手アパレルが全国で2000店舗を閉鎖する状況であり、ファッションビジネス学科の募集状況が芳しくないのも理解できる。高校生たちもその点を敏感に感じているのではないか。
- ・ 学校案内のパンフレットについて 先生が学生に対してどんな人になってほしいかのメッセージを掲載しては、との意見もあったようだが、高校生の側から見るとそこには興味はない。むしろどんな個性の先生がいるのかがポイントではないか。学生にとって先生との出会いが大切である。その意味でもどんな先生がいるのかというアピールが必要である。

現状の就職状況について

- ・ 好調であった前年に比べ、少し遅い印象、ほぼ例年並みかと思う。従来と変わらず技術系専門職の募集が少なく、苦戦している。又、昨年好調だった販売系もアパレル各社が採用調整をしており、前年よりも厳しいが、FAの人手不足感、採用意欲はあるので 最終就職希望者の100%就職を目指す。
- ・ 専門職の課程の学生も販売系の職業に就くことがあるのか。募集企業の状況を見て 専門職を希望するが ファッションに係りたいと販売職を選んだ学生もいるだろう。技術系でも販売職に対応できるよう販売系の内容をカリキュラムに組み込んだという点は理解した。

b. 学校関係者評価委員によるディースファッション専門学校自己評価に対する総評

- ・ 通算すると4回目の学校評価委員会となった中で、学校が変化してきている事は感じられる。学生の安心・安全に留意した教育環境の向上なども取り組んでいる。さらに学生の将来を意識した 学校の魅力向上につなげるための学科の統合・再編に着手しており、評価できる。

一方、外部から見ると この学校自体の特色を一般に知ってもらうようなアピールが薄く感じられる。親の世代から見ると特色のある部分が薄れているようにも思える。学生たちにとってのディースの魅力は何かをしっかりと分析し、入学してほしい学生に向けた努力をすべきである。

大変厳しい状況ではあるが、学校評価委員会での論議を真摯に受け止め、教育活動・学校運営にあたっていただきたい。

4. 学校関係者評価を受けて

平成28年度第2回学校評価委員会において、各委員から真摯で前向きなご論議をいただきました。心より、御礼申し上げます。過去3回の当委員会で頂いたご示唆・ご意見をもとに、本度の学校運営をして参りました。今回の委員会においても、委員各位からはより具体的なご指摘を頂いております。

前回の委員会での気づきやご示唆の中で「学校のクオリティを保つことへのご意見」、「平成29年度より行う学科の統合・再編」に関するご示唆を頂き、今回の委員会におきまして留意した点としてご報告いたしました。これら課題は本校の行う教育活動の重要な課題であり、改善に向け努力するもの、まだまだ十分な成果につながっていない現状と認識しております。今回の委員会でも多くの貴重なご意見・ご示唆を頂きました。今後もご示唆を頂きながら、課題解決に向け努力してまいります。

職業教育を担う本校として、今回のご意見・ご示唆を真摯に受け止め、教職員一丸となり、一つ一つの課題を解決し、本校生が卒業後、ファッション業界で生き生きと活躍できるよう日々努力してまいります。

今後とも学校関係者評価を継続してまいりますので、皆様方のご協力を賜りたくお願い申し上げます。改めて、委員各位様に深く感謝申し上げます。

学校関係者評価委員会開催日程

平成 28 年度 第 1 回

日時： 平成 28 年 4 月 20 日(水)

場所： ディーズファッション専門学校 西館1階 ギャラリー

出席者：

委員 公江辰朗、葛西順子、古川あかり、大橋治子
(中島、酒井、糸井委員は所要で欠席)

オブザーバー 荒川徹、岩崎靖璋

事務局 富永泰彰、中居莊子

平成 28 年度 第 2 回

日時： 平成 28 年 10 月 5 日(水)

場所： ディーズファッション専門学校 西館1階 ギャラリー

出席者：

委員 公江辰朗、葛西順子、酒井明、古川あかり、大橋治子
(中島、糸井委員は所要で欠席)

オブザーバー 荒川徹、岩崎靖璋

事務局 富永泰彰、中居莊子